

SUNSHINE

第37号 2009年 4月発行
 有限会社 太陽開発
 鹿児島市荒田2丁目43-19 TEL099-255-3623
 E-Mail master91@taiyou1991.com
 URL http://www.taiyou1991.com/

太陽開発 検索 クリック!!



賃貸マンション(オーナー様)をご紹介します!

オーナー 郡山様

元々サラリーマンだった郡山さんは高度成長期に、東京で戸建てを約200万円で購入、7年住んだ後に1000万円で売却。この面白さにハマってしまって、これは天職だとい念発起したそうです。まずは谷山に第一グリーンハイツ(木造)を建てたそうです。現在は第十までのシリーズ化になっています。グリーンハイツの名前の由来は、一棟目が木造だったので“葉っぱ”をイメージして付けられたそうです。

どうしたらそんなにマンションを所有できるのか、という質問には『誰でもなれますよ。最初に1棟建ててしまったら後はトントン拍子にいくよ』との答え。でもそれなりに苦労もおありのようです。それでも郡山さんはブレずに“お客様は我が子同然”安心・安全・安価をモットーに日々工夫を凝らして、今回は第六グリーンハイツ(1K)の1室を80万円かけてリフォームされました。このお部屋に入居する方はきっと“HAPPY”になると思いますよ。入居する方に喜んでもらえたらそれでいい。と非常に温かく語ってもらえました。この気持ちこそがマンションオーナーで成功できる秘訣だと感じました。今回、取材に快く応じてくださった郡山様ありがとうございました。



第六グリーンハイツ



第十グリーンハイツ



グリーンベルみずほ



パナビル

長年、お付き合いのあるお客様のN様より昨年、坊津の土地・建物について相談を受け、2回、3回と坊津へ足を運ぶうちに興味を持ったことや、N様より教えて頂いた話を中心に書いてみます。坊津は、鹿児島市内より車で約90分、東シナ海に面した港町です。坊津と言う地名は、昔、お坊さんが多く住んでいた港(港を津と呼ぶそうです)から由来しているそうです。

坊津には有名な一乗院を中心に48のお寺(お坊さんが寝起きする独立した8畳位の建物もお寺と呼んだそうです)があったそうです。

坊津は以前、日本から中国への玄関口として、遣唐使船の寄港地として、又琉球、南西諸島との貿易港としても栄え、宗教文化も充実していました。

しかし、西暦1635年江戸幕府の鎖国政策が、貿易港を長崎に限ったために、坊津は表舞台から消えてしまいました。

しかし、薩摩藩では幕府の網の目をくぐって密貿易が行われ、坊津の繁栄は続いていましたが、ついに「享保の唐物崩れ」と呼ばれる密貿易の取り締まりにより、貿易港としての役目を終え、又明治に入ってから廃仏毀釈政策により、一乗院も廃寺とされ現在に至っています。

今回、N様より大変多くの作家が坊津を訪れたり、坊津を舞台として作品を残しているということを教えてもらいました。N様の実家は昔お寺でした。N様の実家を訪れた作家として、熱心な釣師として知られる「オーパ」の開高健。(つけあげやカツオを肴に豪快に焼酎を飲んだそうです。)

坊津、桜島での海軍生活を元にした小説「桜島」を書いた梅崎春生、大川出身の海音寺潮五郎は、N様の実家にあった「美女と鷹」の杉戸(県指定文化財。現在は輝津館で展示中)を見て、小説「美女と鷹」の構想を練ったとの事です。

又、「痴人の愛」、「細雪」で有名な谷崎潤一郎もN様の実家を訪れたそうです。そのときに、N様の近所の「トキ」ちゃんという娘さんの働き振りを見て、是非、女中さんとして欲しいということで、熱心へ連れて行ったそうです。

このことをきっかけに谷崎家で使用する女中さんについては、N様のお父さんへ谷崎より女中紹介依頼の手紙が来るようになり、お父さんが紹介して、谷崎家の女中(常時3~4人いた)はすべて坊津出身だったそうです。

谷崎家での女中「トキ」ちゃんの仕事ぶりを見て、谷崎が書いたのが「台所太平記」(主演森繁久弥で映画化になった)です。今回話を聞くなかで、南九州にはいくつかの港があったはずなのになぜ坊津が栄えたのか疑問でした。

貿易港として栄えた理由は、潮流とリアス式海岸にあったと思われます。

昔の帆船は風や潮流に逆らって自在に操船することが難しいので、種子島・屋久島などの南西諸島を経由して、中国、琉球へ航海するコースが一番潮流や季節風の点からも最も安全でした。

又、坊津という港はどんな方向から風が吹いても、船の繫留が自在であるため、貿易港として栄えたそうです。

最後に私の坊津でのお勧めは、歴史資料センターの輝津館と双剣石、坊津海岸の夕日です。



焼肉 一風堂

弊社がお世話になっている「騎射場」周辺のお店のご紹介第24弾!!

騎射場電停から徒歩2分のところにある『焼肉・一風堂』お店をはじめられて、9年になられます(^v^)
 おいしいお肉をリーズナブルなお値段で提供されていますので学生さんから仕事帰りのサラリーマン・OL・家族連れなど、幅広い層に人気のお店です♪
 また、店内と屋外での食事が可能で、これからの季節は、屋外で屋台気分を味わうのもサイコーですよ♪
 七輪(炭火)で焼くお肉は格別で、オススメのメニューは・・・
 つぼ和牛(自家製タレに漬け込んだお肉)・ハラミ・ミノ・つぼホルモン・上カルビ・黒豚ロングウィンナー・レバ刺し等いっぱいありすぎて、ご紹介しきれません(-_-)
 ☆☆皆さん是非一度、食べに行って見て下さい☆☆
 お店の一角にお持ち帰り専門の焼鳥もご紹介します♪
 中央駅西口の方に『2店舗目』を近々オープンする予定になっております☆



きしゃば公園前のヤシの木が目印です

お持ち帰り専門のやきとりも やってま〜す♪
 (お友達・ご家族へお土産に(^v^))



ミ/&上カルビ



千千ミ



黒豚ロングウィンナー



アツッ♪
うまいなあ〜
元気がでるぜ



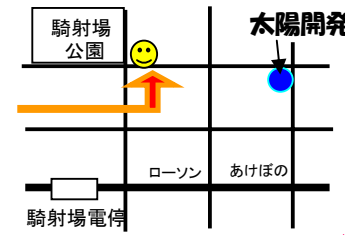
レバ刺し
厚みがあって食べごえあります



うまい!!
ご飯がすすみます

焼肉・一風堂
TEL 099-251-4429

営業時間 ★年中無休★
18:00~24:00 (23:30 OS)
鹿児島市荒田2丁目45-13



今月の一冊 ガール 奥田英朗



其の36

わたし、まだオツケーかな。ガールであることを、そろそろやめたほうがいいのかな。滝川由紀子、32歳。仕事も順調、おしゃれも楽しい。でも、ふとした時に、ブルーになっちゃう(表題作)。ほか、働く女子の気持ちをありえないほど描き込み、話題騒然となった短編集。あなたと彼女のことが、よくわかります。(講談社文庫『ガール』の裏表紙より)

1959年岐阜県生まれ。プランナー、コピーライター、構成作家を経て1997年『ウランバーナの森』でデビュー。第2作『最悪』がベストセラーとなる。続く『邪魔』が大藪春彦賞受賞。2004年『空中ブランコ』で直木賞を受賞した。『ラビホ』は映画化され、今年2月に公開された。

奥田英朗の作品を紹介するのは、これで2回目です。前回は二年前の3月『東京物語』でした。この時は、高校を卒業して他県に進学する息子に思いを馳せ紹介しましたが、今回は同じく他県に進学する事になった娘にエールを送る為に選びました。(極めて個人的な視点です)

とは言え、この作品の主人公達は30代の働く女の子です。楽しい学生時代は過ぎ、社会の荒波に揉まれながら、健気に頑張る彼女達の姿に、大いに共感し、時には涙しながら読みました。18歳の我が娘にも、当社の女子社員にも、そして私自身も“生涯一ガール”として、背筋を伸ばして生きたいものです。

最後に作品の“解説”を担当された吉田伸子女史の言葉を引用します。

“そう、ガールの必須条件、それは「男前」であることだ。ハンサムな女だからこそ、永遠にガールであり続けることができるのだ。・・・中略・・・世の中の、働くガールたちに、乾杯!”